

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年後期	3	2	選択
担当教員			
田井 幹夫			
添付ファイル			
講義概要			
空間認識について、身体感覚としての五感の意味するところを根底に置きつつ、様々な要素によって生み出される空間および空間認識の方法について知見を広げ習得する。前半では様々な都市・建築のあり方を空間認識の方法とともに学習する。後半では建築空間の根本的要素である、構造・環境・形態がデザインと融合し空間を生み出すことを、具体的な事例とともに学習する。 この科目は、建築設計分野の実務経験のある教員が担当する科目である。			
授業計画	1	空間とは ・ガイダンス ・3次元的なものごとの捉え方 ・歴史に見る様々な空間の定義 <AL1、AL2> 準備学習：1) 自分なりの空間への認識を深める 2) 空間概念の歴史を俯瞰する 課題：自分なりの空間の定義を見つけ、写真と解説をA3パネルにまとめる<AL4>	
	2	身体とは ・エドワード・ホールのパーソナルスペースの概念 ・五感を意識する（モホイ・ナジから） ・五感と空間の相関関係（オスカー・シュレンマーから） <AL1、AL2> 準備学習：1) モホイ・ナジを理解する 2) オスカー・シュレンマーを理解する 3) パーソナルスペースの概念の習得 課題：モホイ・ナジまたはオスカー・シュレンマーの映像作品を見て、身体と空間の関係性について述べる。（レポート）<AL4>	
	3	演習1 実際の建築を訪れ、五感で空間体験を行なう。 目隠し、耳栓などをして建築をめぐる。（ex. 資生堂アートハウス） <AL5> 準備学習：1) 五感の一つを閉じて空間体験をする 2) 五感の一つ一つの空間への影響力を知る 課題：体験したことの感想をレポートする<AL4>	
	4	都市空間を認識する1 ・西洋の都市空間のあり方の中に空間性を読み取る ・ギリシャ、ローマ、イタリア山岳都市、パリ、NYなど ・西洋的都市空間構成と空間把握の方法 ・ケヴィン・リンチの都市の捉え方「都市のイメージ」 <AL1、AL2> 準備学習：1) 西洋的都市構成の理解 2) 歴史的変遷の習得 3) 都市空間の構成根拠の理解 課題：西洋の都市をひとつピックアップしケヴィン・リンチの手法で分析（A3パネルにまとめる）<AL4>	
	5	都市空間を認識する2 ・日本の都市空間のあり方の中に空間性を読み取る ・奈良、京都、江戸、地方の宿場町など ・二川幸夫「日本の民家」に見る日本の都市形成 ・日本的都市空間構成と空間把握の方法 <AL1、AL2> 準備学習：1) 日本的都市構成の理解 2) 歴史的変遷の習得 3) 都市空間の構成根拠の理解 課題：日本の都市をひとつピックアップしケヴィン・リンチの手法で分析（A3パネルにまとめる）<AL4>	
	6	建築空間を認識する1 ・西洋建築における空間の成り立ち ・歴史の変遷における各様式の空間（ロマネスク、ゴシック、ルネッサンス、バロック、、、） ・空間形式と宗教などバックグラウンドの関連性 <AL1、AL2> 準備学習：1) 西洋的建築空間の理解 2) 歴史的変遷の習得 課題：西洋の建築空間でもっともそれを表していると思われる例をプレゼンする（A3パネルにまとめる）<AL4>	

7	建築空間を認識する2 ・日本建築における空間の成り立ち ・歴史の変遷における各様式の空間（和様、大仏様、寝殿造り、民家、、、） ・空間形式と宗教などバックグラウンドの関連性 ・「日本の建築空間」新建築社を参考に古代から現代までの日本建築を俯瞰する <AL1、AL2> 準備学習：1) 日本的建築空間の理解 2) 歴史的変遷の習得 課題：日本の建築空間でもっともそれを表していると思われる例をプレゼンする（A3パネルにまとめる） <AL4>
8	アートが試みる空間の認識1 ・現代美術作品における空間の扱い ・現象的側面。 ・ジェームス・タレルについて ・アリゾナプロジェクトについて <AL1、AL2> 準備学習：1) アートと空間の関連性について理解する 2) 様々な試みとそれぞれの空間性を考察する 課題：ジェームス・タレルの作品を一つ選択し、解説及び考察をプレゼンする（A3パネルにまとめる） <AL4>
9	アートが試みる空間の認識2 ・現代美術作品における空間の扱い ・現象的側面。 ・オラファー・エリアソンについて ・ウェザープロジェクトについて <AL1、AL2> 準備学習：1) アートと空間の関連性について理解する 2) 様々な試みとそれぞれの空間性を考察する 課題：オラファー・エリアソンの作品を一つ選択し、解説及び考察をプレゼンする（A3パネルにまとめる） <AL4>
10	建築空間における空間要素の解説1-1 「構造デザイン講義」内藤廣著 解説 1 第1章 総論 第2章 組構造 第3章 スティール <AL1、AL2> 準備学習：1) 建築空間における構造とは 2) 構造とデザインの関係性を理解する 3) 組積造、スチール造について理解を深める 課題：組積造もしくはスチール造で自身の最も好きな建築を解説する（A3パネルにまとめる） <AL4>
11	建築空間における空間要素の解説1-2 「構造デザイン講義」内藤廣著 解説 2 第4章 コンクリート 第5章 プレキャストコンクリート 第6章 木造 第7章 構造デザインの最前線 <AL1、AL2> 準備学習：1) 建築空間における構造とは 2) 構造とデザインの関係性を理解する 3) コンクリート造、プレキャストコンクリート造、木造について理解を深める 課題：コンクリート造、プレキャストコンクリート造、木造で自身の最も好きな建築を解説する（A3パネルにまとめる） <AL4>
12	建築空間における空間要素の解説2-1 「環境デザイン講義」内藤廣著 解説 1 第1章 総論 第2章 「光」 第3章 「熱」 <AL1、AL2> 準備学習：1) 建築空間における構造とは 2) 環境とデザインの関係性を理解する 3) 「光」「熱」について理解を深める 課題：「光」または「熱」をデザイン根拠にした自身の最も好きな建築を解説する（A3パネルにまとめる） <AL4>

	13 建築空間における空間要素の解説2-2 「環境デザイン講義」内藤廣著 解説 1 第4章 「水」 第5章 「音」 第6章 「風」 <AL1、AL2> 準備学習：1) 建築空間における構造とは 2) 環境とデザインの関係性を理解する 3) 「水」「音」「風」について理解を深める 課題：「水」「音」「風」をデザイン根拠にした自身の最も好きな建築を解説する（A3パネルにまとめる） <AL4> 14 建築空間における空間要素の解説3-1 「形態デザイン講義」内藤廣著 解説 1 第1章 総論 第2章 「技術の翻訳」 <AL1、AL2> 準備学習：1) 建築空間における形態とは 2) 形態とデザインの関係性を理解する 3) 「技術の翻訳」について理解を深める 課題：「技術」を翻訳したと考える建築作品をひとつプレゼンテーションする（A3パネルにまとめる） <AL4> 15 建築空間における空間要素の解説3-2 「形態デザイン講義」内藤廣著 解説 2 第3章 「場所の翻訳」 第4章 「時間の翻訳」 <AL1、AL2> 準備学習：1) 建築空間における形態とは 2) 形態とデザインの関係性を理解する 3) 「場所の翻訳」「時間の翻訳」について理解を深める 課題：「場所」「時間」を翻訳したと考える建築作品をひとつプレゼンテーションする（A3パネルにまとめる） <AL4>
授業形態	プロジェクターおよび、紙資料による講義、演習。 アクティブラーニング：①:14 回, ②:14 回, ③:0 回, ④:15 回, ⑤:1 回, ⑥:0 回
達成目標	空間について以下の項目について意識化しながら設計を行なう事ができる事を習得する。 1. 身体性（基礎） 2. 現象性（基礎） 3. 空間を成立させる構造（応用） 4. 空間を成立させる環境（応用） 5. 空間を成立させる形態（応用） 6. 世界中の都市・建築空間の特筆すべきサンプル。（基礎）
評価方法・フィードバック	演習レポートによる。テキストだけではなく挿入する画像、表現の中にも空間への理解、論理性などを見る。 原則として、レポート・小テスト等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。
評価基準	レポートに対する採点。秀100～90、優89～80、良79～70、可69～60、不可59以下
教科書・参考書	各回必要に応じてプリントを配布する。 教科書：「構造デザイン講義」、「環境デザイン講義」、「形態デザイン講義」 内藤廣著、王国者
履修条件	なし
履修上の注意	設計を専攻する学生は必ず履修の事。
準備学習と課題の内容	・初回までにシラバスを読み授業項目や目的を理解しておくこと。2回目以降は各授業終了時に次回までの準備内容を指示する。（毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度）
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解：20％, 思考・判断：30％, 関心・意欲：20％, 態度：20％, 技能・表現：10％
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	